

協議会』から提出された提言書をもとに、『地域経済振興に係る総合的ビジョン』

の策定を進め、事業者などや市民、市がそれぞれの役割を果たし、連携しながら地域経済の振興に取り組んでいきます。

商店街の活性化については、まずは、当市の観光の玄関口であるJR登別駅前周辺を新たなモデルケースとしながら、地域のにぎわいの創出を図るうえで不足している業種や機能について、市内の商店会などと協議するとともに、空き店舗活用事業補助金や新たに事業所開設費補助金の上限を引き上げるなどの創業支援により、事業者などの積極的な誘致に取り組んでいきます。

また、中小企業の経営上の課題である『人材の不足』に対し、生産性の向上や経営力の強化を図るため、新たに登別商工会議所と連携して人材育成に必要な経費の一部を補助し、中小企業の安定した経営を支援していきます。



▲商店街のさらなる活性化を図るため、積極的な事業者誘致に取り組むJR登別駅前地区

就労支援

生活困窮者の多くが地域から孤立し、SOSを発することが難しいと考えられることから、新たに専任の職員を配置し、経済的な困窮などの課題を抱えた市民の早期把握に努めていきます。

また、生活困窮者の多くが自尊心や自己有用感を喪失し、次のステップに向かうことができなくなっている状況にあることをふまえ、就労に必要な訓練を日常生活、社会生活段階から支援する『就労準備支援事業』に取り組むとともに、自ら家計を管理できるように必要な支援を行う『家計相談支援事業』などの新たな支援に取り組んでいきます。

これらの事業を通し、就労に向けた準備が一定程度整った方などについては、市が実施する『若年者等キャリアアカウンセリング事業』との連携やハローワークなどの協力を得ながら、就労に繋がるよう、庁内外における横断的連携のもと、自立支援の体制強化を図っていきます。

将来にわたって市民が活躍できるまちづくり

大きな節目を『きっかけ』にまちづくりへの想いを『形』に

平成30年度の市政執行に関する基本的な方針の一端を申し上げましたが、2年

後に迎える市制施行50周年という大きな節目に向けて、市民や関係団体、企業などの多くの方が市民実行委員会として携わることにより、少しでもまちづくりに興味や関心をもつ『きっかけ』に繋げていくことがなによりも大切です。

まちづくりは、ふるさとのためにボランティアとして携わる多くの市民の、まちづくりへの熱意によって支えられており、年齢や職種などを越えたさまざまな世代が繋がることによって、より良いまちに発展していくものと期待をしているところです。

私も市長となる前の市制施行30周年には、一市民として市制施行30周年・西暦2000年市民実行委員会に携わり、毎日夜遅くまで、実行委員会のメンバーとともに企画案を練り、事業実施に向けて取り組んだところであり、この30周年を『きっかけ』に、今日まで活躍をされている市民が多くいます。



▲市制施行30周年の2000年には、記念式典のほか、さまざまな催しが行われた



▲市内のまちづくり団体をはじめ、多くの市民が連携したことで市民活動がさらに活性化した市制施行40周年

さらに、40周年で関わった市民の皆さんの多くは、現在、まちづくりのリーダー的存在として活躍されています。

2020年の市制施行50周年記念事業は、まちづくりの先達と未来のまちづくりを担う子どもたち、民間と行政、地域と地域、団体と団体など、これまで培われた繋がりをあらためて確認するとともに、まちを想う人と人との繋がりを一層強固なものとするチャンスとなりますので、今後、多くの市民の皆さんと共に記念事業などの取り組みを通じて、将来にわたって市民が活躍できるまちづくりの動きの創出に努めていきます。

10年後、20年後、さらにもっと先も市民が夢を描くことができる、魅力あふれるまちでいることができるよう、将来あるべきまちの姿を見据え、市民の皆さん、議員の皆さんとともに、人と人との繋がりを、そしてまちづくりへの想いを『形』にすることができるよう、取り組んでいきますので、皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。